

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：34315

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20122

研究課題名（和文）ポスト・コロナ期の多文化共生の課題と難民・避難民の再定住：離散シリア難民を事例に

研究課題名（英文）Challenges of Multicultural Coexistence and Resettlement of Displaced People in The Post-COVID-19 Era : A Case Study of The Syrian Refugees

研究代表者

望月 葵 (Mochizuki, Aoi)

立命館大学・衣笠総合研究機構・特別研究員 (PD)

研究者番号：20962012

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究課題において、現代に至るまでの各国の難民保護制度の分析と多文化政策の比較を中心に実施した。これまで研究を進めてきたヨルダン、ドイツに加えて、さらに日本の難民政策に注目した。2022年度は、ウクライナ危機以降の日本の移民・難民政策に着目し、シリア難民、アフガニスタン難民、ウクライナ避難民と続く日本の政策の変遷について研究を進めた。2023年度は、日本の「多文化共生」概念がどのように難民政策に適用されているのかについて研究を進め、英語による国際シンポジウムでの口頭発表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、中東の難民問題を中心に、難民の受入政策について中東、欧州、日本の比較検討を行った。その背景にあるのは、グローバル化がさらに進展する中で、異なる文化的背景を持つ人々との共生社会をいかに築いていくことができるのかという大きな問いであった。現代の難民政策の傾向を分析することで、移民・難民・外国人労働者を取りまく今後の日本社会の在り方についての議論に貢献しようという点に、本研究の学術的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this research project, I focused on analyzing the refugee protection systems of each country up to the present day and comparing their multiculturalism. In addition to Jordan and Germany, which I have been researching so far, I focused on Japan's refugee policy. In 2022, we focused on Japan's immigration and refugee policies since the Ukraine crisis and researched the changes in Japan's policies regarding Syrian refugees, Afghan refugees, and Ukrainian refugees. In 2023, I researched how Japan's concept of "multicultural coexistence" is applied to Japan's refugee policies and gave an oral presentation in English at an international symposium.

研究分野：中東地域研究、難民研究

キーワード：シリア難民問題 多文化共生

1. 研究開始当初の背景

グローバル化が進展した現代において、国際移動は非常に活発化しており様々な側面で注目を集めている。観光やビジネスに伴う国際移動が歓迎される一方で、移民や難民をどのように受け入れるかという問題に国際社会は直面している。特に、2011年に勃発したシリア内戦をきっかけに680万人以上のシリア国籍者が難民となって離散し、国際的な「難民危機」に発展した。さらに2022年にはウクライナ難民危機が発生した。難民の定義を広義で捉えるならば、いまや世界全体で1億人を超える人々が難民として避難生活を強いられている。これらの難民危機によって、難民ホスト国は自国の国民国家体制の在り方を再考することに迫られている。

さらに2020年1月以降、国際社会は世界的なパンデミックに直面した。多くの国が国境管理を厳格化し、強制移住を含む多くの国際移動が停滞することとなり、難民はキャンプやホスト社会に留め置かれることとなった。コロナ禍によって、難民は社会の中より脆弱な存在として可視化され、彼らに対する支援をどのように実施するのかが問題となった。

このような背景を前提に、現代の強制移住の現象を明らかにするためには、国際機関や難民ホスト国の政策分析、紛争発生メカニズムの解明、国際的な移民・難民をめぐる規範形成の分析、NGOなどの非国家アクターによる支援の実態や難民の生活実態の解明が必要である。本研究は世界最大級の難民問題であるシリア難民問題に着目して、シリア難民のホスト社会への定着について地域間比較を行なった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中東、欧州、日本というそれぞれ異なる文化・宗教圏に属する国を対象に、それぞれのホスト国における多文化共生社会の形成過程や移民・難民の連帯の動態について明らかにすることであった。特に本研究では、多文化共生を論じるにあたって、シリア難民の離散と再定住の状況を難民と受入社会のそれぞれの文化と言語の関わり合いに着目して解明することをめざした。さらに、避難先におけるシリア難民の生存戦略において、コロナ禍がもたらした現代社会の変容はどのように関わっているのかについて明らかにしようとした。

3. 研究の方法

本研究は地域研究の視座に立脚しており、文献調査と並行して現地でのフィールド調査の実施が必要不可欠であった。しかし本研究の初年度(2022年)においては、コロナ禍の影響が比較的落ち着いてきた時期ではあったものの、日本国内においては移動(特に海外での調査)に慎重な態度を求められたこともあり、フィールド調査を制限せざるを得ない状況であった。そこで、当初の計画を変更し、初年度は文献調査に基づいた各国の難民政策の分析を中心に研究を進めた。その後、様々な国際移動の規制緩和を受けて、国外(ヨルダン、ドイツ)でのフィールド調査を実施した。フィールド調査では、シリア難民、難民支援に携わるNGO関係者、モスク関係者にインタビューを実施した。

4. 研究成果

本研究では、現代の主要なシリア難民のホスト国の難民保護制度の分析と、各国の多文化政策の比較を進展させることができた。これまで研究を進めてきたヨルダン、ドイツ、スウェーデンに加えて、本研究では日本の難民政策に注目し、国内外の学会や研究会で英語による研究発信を実施した。特に、2022年に発生したウクライナ危機は、これまで難民の受け入れに消極的な対応をとってきた日本が例外的な対応をみせ、全国の地方自治体が歓迎的なウクライナ難民支援を実施している。本研究では、ウクライナ難民危機とそれに先行するシリア難民とアフガニスタン難民の受け入れを事例に、日本の対中東外交政策と関連させながら、日本の多文化共生政策について論じた。そこでは、特に日本のシリア難民政策は対中東ODAの枠組みに沿う形で実施されていることを指摘した。さらに、日本における「多文化共生」概念が形骸的であることを指摘し、シリア難民の受け入れについて日本の難民政策がいかに対応できるのかその展望を示した。また、国際難民レジームの中で頻用されている「レジリエンス」概念について、コロナ禍における国際機関とヨルダン、日本の難民政策の文脈から検討を加えた。

さらに本研究では、非アラブ・イスラーム圏における母語教育と宗教教育について調査を実施した。ドイツでは特にモスクでのイスラーム教育に関するインタビュー調査を実施し、その成果をもとに国家の形成過程と特にイスラーム的な宗教教育の関係について国際学会で報告を行った。言語と宗教はシリア難民のアイデンティティーの基礎を形成する重要な要素の1つであるが、これらに対する支援はホスト国の政策において一部分に留まっており、草の根活動によって補完されていることを指摘した。

今後の展望として、シリア難民の文化的および宗教的アイデンティティーがどのように維持または変容しているのかについて継続的な研究を行う。特に、難民それぞれのライフステージにおいて教育や就労がどのように選択されているのか、世代ごとに着目して分析を行う必要がある。加えて、ホスト社会のオールドカマーがどのようにシリア難民に対する社会の中の居場所を提供しているのかについても発展的な研究を実施する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Aoi Mochizuki
2. 発表標題 Politics of Naming and Definitions Reflection on Cases of Syrian, Afghan, and Ukrainian Refugees in Japan
3. 学会等名 The 49th AJI Frontier Seminar
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Aoi Mochizuki
2. 発表標題 Importance and Challenges of Refugee Resettlement as an Inevitable Solution: Reflections based on the Syrian Refugee Crisis in the Middle East and West Europe
3. 学会等名 Asia Pacific Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Aoi Mochizuki
2. 発表標題 Challenges of Receiving Refugees and Displaced Persons in Japan: A Focus on Syrian, Afghan and Ukrainian Refugees
3. 学会等名 AJI International Workshop From the Frontier of Asian Diaspora Studies: Perspectives on Migrants, Refugees, and Returnee Diasporas (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aoi Mochizuki
2. 発表標題 Japan's Humanitarian Response to The Syrian Refugee Crisis: Cultural Coexistence vs Refugees' Belongingness
3. 学会等名 NUQ-RU International Workshop: "Facing the Challenges of International Coexistence in Asia Today: Welcoming the Migrants, Diasporas, and Refugees of the World" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aoi Mochizuki
2. 発表標題 Prospects for Inclusion of Immigrants and Refugees: The Case of Japan with Special Consideration of its “Cultural Coexistence”
3. 学会等名 The Migration Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Aoi Mochizuki
2. 発表標題 Challenges to Cultural Coexistence in the Century of Refugees: Belongingness for Syrian Refugees Today
3. 学会等名 Asia Pacific Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関